

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-35360

(43) 公開日 平成8年(1996)2月6日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 5 B 1/00	3 0 1 A			
B 6 0 J 5/04			B 6 0 J 5/ 04	H

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平6-191880

(22) 出願日 平成6年(1994)7月22日

(71) 出願人 000006183

三井金属鉱業株式会社

東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号

(72) 発明者 芦沢 勝也

山梨県韭崎市長草町下条西割1200 三井金属鉱業株式会社韭崎工場内

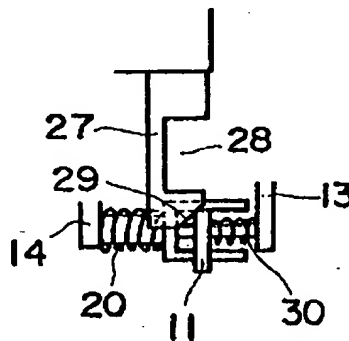
(74) 代理人 弁理士 新関 宏太郎 (外1名)

(54) 【発明の名称】 車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置

(57) 【要約】

【目的】 ハンドルレバーとバネの外れ防止。

【構成】 ハンドルベース体2の挿入口10近傍位置に、バネ20で一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバー18を設け、ハンドルレバー11は、該摺動案内レバー18に前後方向摺動自在且つ共回りするように係合させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 車両扉のドアアウターパネルの内面に当接固定されるハンドルベース体と、該ハンドルベース体に取り付けられるバネにより一方方向に付勢回転されているハンドルレバーと、前記ドアアウターパネルの外側より取り付けられ一端には前記ハンドルベース体に設けた係合ピンに係合させうる係合部と他端には前記ハンドルベース体に設けた挿入口より挿入され前記ハンドルレバーに係合する係合凹部を有する挿入突起を備えたグリップ型のアウターハンドル本体とからなるものにおいて、前記ハンドルベース体の前記挿入口近傍位置には、バネで一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバーを設け、該摺動案内レバーには前記ハンドルレバーを前後方向摺動自在且つ前記摺動案内レバーと共回りするように係合させた車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置。

【請求項2】 車両扉のドアアウターパネルの内面に当接固定されるハンドルベース体と、該ハンドルベース体に取り付けられるバネにより一方方向に付勢回転されているハンドルレバーと、前記ドアアウターパネルの外側より取り付けられ一端には前記ハンドルベース体に設けた係合ピンに係合させうる係合部と他端には前記ハンドルベース体に設けた挿入口より挿入され前記ハンドルレバーに係合する係合凹部を有する挿入突起を備えたグリップ型のアウターハンドル本体とからなるものにおいて、前記挿入突起の先端には前記挿入口に挿入時前記ハンドルレバーの一端に当接して該ハンドルレバーを前後方向のいずれか一方に移動させうる傾斜面を形成し、前記ハンドルベース体の前記挿入口近傍位置には、バネで一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバーを設け、該摺動案内レバーには前記ハンドルレバーを前後方向摺動自在且つ前記摺動案内レバーと共回りするように係合させた車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の分野】本発明は、車両用アウターハンドルの取付装置に関するものである。

【0002】

【従来技術】従来公知の、アウターハンドルは、レターボックス型と呼ばれるものと、スライド扉に多いグリップ型と呼ばれるものの2種類がある。実開昭63-125669号公報、実開平4-42563号公報、実開昭63-23449号公報記載のものは、いずれもグリップ型ハンドルである。グリップ型ハンドルの構造は、図1のように、車両扉のドアアウターパネルaの内面に当接固定されるハンドルベース体bと、該ハンドルベース体bに取り付けられるバネにより一方方向に付勢回転されているハンドルレバーhと、前記ドアアウターパネルaの外側より取り付けられ一端には前記ハンドルベース体b

に設けた係合ピンeに係合させうる係合部dと他端には前記ハンドルベース体bに設けた挿入口iより挿入され前記ハンドルレバーhに係合する係合凹部gを有する挿入突起fを備えたグリップ型のアウターハンドル本体cとからなる構造である。前記図1のものは、前記ハンドルレバーhは、アウターハンドル本体cの組付の邪魔になるから、予め前記ハンドルベース体bに組付けておくことはできず、前記アウターハンドル本体cを装着した後からその係合凹部gに係合させるように取付けるので、組立手間を必要とする。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記図1のグリップ型ハンドルの課題は、前記のようにアウターハンドル本体cを取付けるとき、ハンドルレバーhが邪魔になって取付けられないので、ハンドルレバーhは外してアウターハンドル本体cを取付けなくてはならない点に課題があった。図2のものは、これを改善した別の公知例で、前記挿入突起fの挿入されるハンドルベース体b側に設けられる挿入口iは前後方向に大きく形成して、アウターハンドル本体cは前後方向に動くようにし、挿入突起fを挿入口iに挿入した後、図2において左動させて係合凹部gにハンドルレバーhに係合させる。このようにすると、ハンドルレバーhを後付けする必要はなくなるから、予めハンドルベース体bに取付けておくことができる。しかし、図2のものは、取付け終了後、大きな挿入口iが見えて見苦しいことと、アウターハンドル本体cの抜け防止のため、穴埋めピースjを取付けるので、その点に課題がある。図3は、公知ではないが、これを更に改善し、挿入口iは小さくしてもハンドルレバーhはハンドルベース体bに予め組付けておくことができる案である。即ち、挿入突起fの先端に傾斜部kを形成しておき、挿入突起fを挿入すると、傾斜部kがハンドルレバーhに当たってハンドルレバーhが後方に逃げるようにしたものである。この案は、挿入突起fを挿入口iに挿入して傾斜部kによりハンドルレバーhを逃すと、ハンドルレバーhに取付けてある付勢バネmが外れるという課題があるので案だけであって実施化はされていない。

【0004】

【発明の目的】上記のバネの外れ対策を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】よって、本発明は、車両扉のドアアウターパネルの内面に当接固定されるハンドルベース体と、該ハンドルベース体に取り付けられるバネにより一方方向に付勢回転されているハンドルレバーと、前記ドアアウターパネルの外側より取り付けられ一端には前記ハンドルベース体bに設けた係合ピンに係合させうる係合部と他端には前記ハンドルベース体bに設けた挿入口より挿入され前記ハンドルレバーhに係合する係合凹部を有する挿入突起を備えたグリップ型のアウターハンドル本体とからなるものにおいて、前記ハンドルベース

体の前記挿入口近傍位置には、バネで一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバーを設け、該摺動案内レバーには前記ハンドルレバーを前後方向摺動自在且つ前記摺動案内レバーと共回りするように係合させた車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置としたものである。また、本発明は、車両扉のドアアウターパネルの内面に当接固定されるハンドルベース体と、該ハンドルベース体に取付けられるバネにより一方方向に付勢回転されているハンドルレバーと、前記ドアアウターパネルの外側より取付けられ一端には前記ハンドルベース体に設けた係合ピンに係合させる係合部と他端には前記ハンドルベース体に設けた挿入口より挿入され前記ハンドルレバーに係合する係合凹部を有する挿入突起を備えたグリップ型のアウターハンドル本体とからなるものにおいて、前記挿入突起の先端には前記挿入口に挿入時前記ハンドルレバーの一端に当接して該ハンドルレバーを前後方向のいずれか一方に移動させる傾斜面を形成し、前記ハンドルベース体の前記挿入口近傍位置には、バネで一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバーを設け、該摺動案内レバーには前記ハンドルレバーを前後方向摺動自在且つ前記摺動案内レバーと共回りするように係合させた車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置としたものである。

【0006】

【実施例】本発明の一実施例を図面により説明すると、1はドアアウターパネル、2は該アウターパネル1の内側に固定されるハンドルベース体であり、該ハンドルベース体2の一端3は上片4と下片5からなる二又部6に形成され、前記上片4と前記下片5の間のスリット7の先側に係合ピン8が取付けてある。9は前記ハンドルベース体2の他端で、該他端9には挿入口10が形成され、該挿入口10の上（下でも可）面側に、ハンドルレバー11の取付部材12が設けられる。該取付部材12は、前側突起13と後側突起14と前記前側突起13に一体の側壁15とよりなり、前記前側突起13と前記後側突起14は前記ハンドルベース体2から直角に突出しており、前記側壁15は図6のA-A断面図のように前記前側突起13より後方に伸びている。

【0007】前記前側突起13と前記後側突起14の相對峙する位置には、それぞれ前後方向の透孔16、16'が設けられ、該透孔16、16'に前後軸棒17が挿通される。該前後軸棒17には、断面形状がコの字型の摺動案内レバー18の軸筒部19が挿通される。該軸筒部19は、前記摺動案内レバー18の後方に一体的に突出しており、前記摺動案内レバー18はB-B断面の図11のように前記軸棒17を中心に前記側壁15に当接する位置から前記側壁15より離れる位置の間θだけ回動自在であり、前記軸筒部19の外周にはコイルスプリング20を巻回して該摺動案内レバー18を前記コイ

ルスプリング20の弾力により常時前記側壁15に当接するよう付勢する。前記前後軸棒17には前記ハンドルレバー11を軸装し、該ハンドルレバー11はコの字型の前記摺動案内レバー18内に摺動自在に係合させ且つ前記摺動案内レバー18と一緒に回動するようにし、前記ハンドルレバー11の一端21は前記挿入口10方向に突出させ、前記ハンドルレバー11の他端22は前記摺動案内レバー18より外方に突出させる。

【0008】23はアウターハンドル本体であり、該アウターハンドル本体23の一端24には前記ハンドルベース体2の前記一端3の前記スリット7に挿入されて前記スリット7内の前記係合ピン8に係合する係合部25が形成され、前記アウターハンドル本体23の他端26には前記挿入口10に挿入される挿入突起27を形成し、該挿入突起27の前面には係合凹部28を、前記挿入突起27の先端には、前側に至る程高い傾斜面29を形成する。それゆえ、前記挿入突起27を前記挿入口10に挿入させると、前記傾斜面29が前記ハンドルレバー11の前記一端21に当って前記傾斜面29の作用により前記ハンドルレバー11をバネ30の弾力に抗して前方にスライドさせるが、前記ハンドルレバー11のスライドは、コの字型の前記摺動案内レバー18内をそのままスライドするだけだから、前記ハンドルレバー11がスライドしても、本願の場合は前記コイルスプリング20と前記摺動案内レバー18との係合は外れない。なお、前記傾斜面29は設けなくともよく、設けないときは、組立てるとき、邪魔にならない位置まで指先で押さえておく。そして、係合終了すると、前記ハンドルレバー11の前記一端21は前記バネ30の弾力で前記係合凹部28に係合する。

【0009】

【作用】次に作用を述べる。ハンドルベース体2の他端9側に設けた前側突起13と後側突起14の透孔16、16'に前後軸棒17を挿通させ、該前後軸棒17の外周には摺動案内レバー18の軸筒部19を挿通させ、摺動案内レバー18には、前後軸棒17に挿通させたハンドルレバー11を嵌合させ、軸筒部19の外周にコイルスプリング20を巻回させてコイルスプリング20の一端は後側突起14にコイルスプリング20の他端は摺動案内レバー18に係合させる。すると、摺動案内レバー18はコイルスプリング20の弾力により図11において左回転して常時側壁15に当接して停止する。なお、前記前後軸棒17の前側にはバネ30を挿通させ、該バネ30の弾力で前記ハンドルレバー11を常時後方のコの字型摺動案内レバー18に奥側に弾着させておく。

【0010】このように、ハンドルベース体2にハンドルレバー11を装着したものをそのままドアアウターパネル1の内側に当接してビスにより固定し、固定されたハンドルベース体2の一端3の上片4と下片5との間にアウターハンドル本体23の一端24に形成された係合

部25を挿入させて係合ピン8に係合させ、その状態で、アウターハンドル本体23の他端26の挿入突起27をハンドルベース体2の他端9の挿入口10に挿入させると、挿入突起27の挿入方向にハンドルレバー11の一端21が臨んでいても、挿入突起27の先端の傾斜面29でハンドルレバー11の一端21をバネ30の弾力に抗し、図13のように前側に押して移動させるから、挿入突起27の挿入は可能になる。そして、ハンドルレバー11を移動させても、ハンドルレバー11はコの字型摺動案内レバー18に係合していて、該摺動案内レバー18内を摺動するだけだから、該摺動案内レバー18とバネ20の係合は外れず、挿入突起27の挿入に何も支障は起ない。引き続き挿入突起27を挿入すると、ハンドルレバー11の一端21部は戻って係合凹部28内に係合し、取付けは終了する。

【0011】この状態で、アウターハンドル本体23を引くと、ハンドルレバー11はコの字型摺動案内レバー18ごとθ角度だけ回動して、オープンレバーを回動させて開扉する。なお、前記傾斜面29を設けない実施例のときは、ハンドルレバー11を、組立ての邪魔にならない位置まで、バネ30の弾力に抗し指先ですらせておく。

【0012】

【発明の効果】前記のように、図1のグリップ型アウターハンドルは、アウターハンドル本体cを取付けるとき、ハンドルレバーhが邪魔になって取付けられないので、ハンドルレバーhは外してアウターハンドル本体cを取付けなくてはならないという問題があった。図2のものは、前記挿入突起fの挿入されるハンドルベース体b側に設けられる挿入口iを前後方向に大きく形成して、アウターハンドル本体cは前後方向に動くようにし、挿入突起fを挿入口iに挿入した後、図2において左動させて係合凹部gにハンドルレバーhに係合させるから、ハンドルレバーhを後付けする必要はなくなるが、大きな挿入口iは見苦しいことと、アウターハンドル本体cの外れ防止のため、穴埋めピースjを取付けなければならないという別の課題があった。また、図3のものは、公知ではないが、挿入突起fの先端に傾斜部kを形成し、挿入突起fを挿入すると、該傾斜部kがハンドルレバーhに当たってハンドルレバーhが後方に逃げるようにしたものであるから、前記の問題は解決しているが、傾斜部kによりハンドルレバーhを押して逃すと、ハンドルレバーhに取付けてある付勢バネmがハンドルレバーhから外れるという別の課題がある。しかるに、本発明は、車両扉のドアアウターパネル1の内面に当接固定されるハンドルベース体2と、該ハンドルベース体2に取付けられるバネ20により一方方向に付勢回転されているハンドルレバー11と、前記ドアアウターパネル1の外側より取付けられ一端には前記ハンドルベース体2に設けた係合ピン8に係合させる係合部25と他

端には前記ハンドルベース体2に設けた挿入口10より挿入され前記ハンドルレバー11に係合する係合凹部28を有する挿入突起27を備えたグリップ型のアウターハンドル本体23とからなるものにおいて、前記ハンドルベース体2の前記挿入口10近傍位置には、バネ20で一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバー18を設け、該摺動案内レバー18には前記ハンドルレバー11を前後方向摺動自在且つ前記摺動案内レバー18と共回りするように係合させた車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置としたものであるから、ハンドルレバー11をアウターハンドル本体23の取付けの邪魔にならない位置まで指先でのけても、ハンドルレバー11とバネ20との係合は外れないので、ハンドルレバー11を指先でのけておいてアウターハンドル本体23を取付けることができる。したがって、前記ハンドルレバー11は、前記摺動案内レバー18とともにハンドルベース体2に予め取付けておけるから、組立容易である。また、本発明は、車両扉のドアアウターパネル1の内面に当接固定されるハンドルベース体2と、該ハンドルベース体2に取付けられるバネ20により一方方向に付勢回転されているハンドルレバー11と、前記ドアアウターパネル1の外側より取付けられ一端には前記ハンドルベース体2に設けた係合ピン8に係合させる係合部25と他端には前記ハンドルベース体2に設けた挿入口10より挿入され前記ハンドルレバー11に係合する係合凹部28を有する挿入突起27を備えたグリップ型のアウターハンドル本体23とからなるものにおいて、前記挿入突起27の先端には前記挿入口10に挿入時前記ハンドルレバー11の一端21に当接して該ハンドルレバー11を前後方向のいずれか一方に移動させる傾斜面29を形成し、前記ハンドルベース体2の前記挿入口近傍位置には、バネ20で一方方向にのみ回転するよう付勢されている前後方向のコの字型摺動案内レバー18を設け、該摺動案内レバー18には前記ハンドルレバー11を前後方向摺動自在且つ前記摺動案内レバー18と共回りするように係合させた車両用グリップ型アウターハンドルの取付装置としたから、ハンドルレバー11は前後方向に摺動してもハンドルレバー11とバネ20との係合は外れない構成なので、アウターハンドル本体23をハンドルベース体2に単に挿入すると、傾斜面29でハンドルレバー11を前後方向にずらせて取付けることができる。したがって、前記ハンドルレバー11は前記摺動案内レバー18とともにハンドルベース体2に予め取付けておいて組立てることができるから、組立容易である。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1公知例横断平面図。

【図2】第2公知例横断平面図。

【図3】第2公知例の改良案の横断平面図。

【図4】本願挿入突起挿入後の状態図。

【図5】ハンドルベース体の側面図。

【図6】A-A断面図。

【図7】前後軸棒の平面図。

【図8】摺動案内レバーの平面図。

【図9】バネの平面図。

【図10】本願側面図。

【図11】B-B断面図。

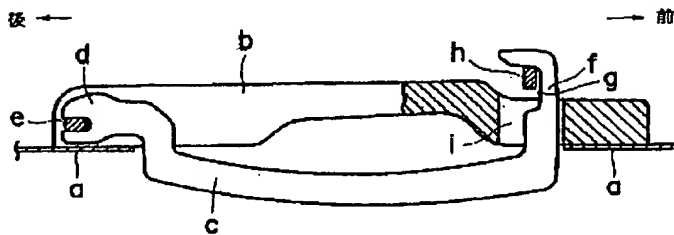
【図12】本願挿入突起挿入前の状態図。

【図13】本願挿入突起挿入中の状態図。

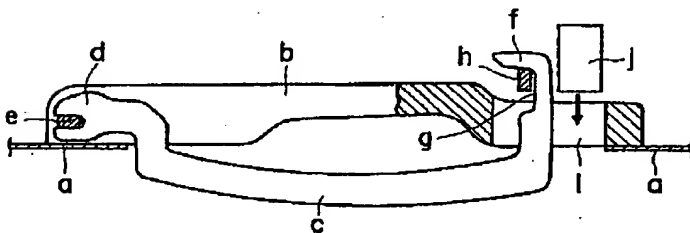
【符号の説明】

1…ドアアウターパネル、2…ハンドルベース体、3…一端、4…上片、5…下片、6…二又部、7…スリット、8…係合ピン、9…他端、10…挿入口、11…ハンドルレバー、12…取付金具、13…前側突起、14…後側突起、15…側壁、16、16'…透孔、17…前後軸棒、18…摺動案内レバー、19…軸筒部、20…コイルスプリング、21…一端、22…他端、23…アウターハンドル本体、24…一端、25…係合部、26…他端、27…挿入突起、28…係合凹部、29…傾斜面、30…バネ。

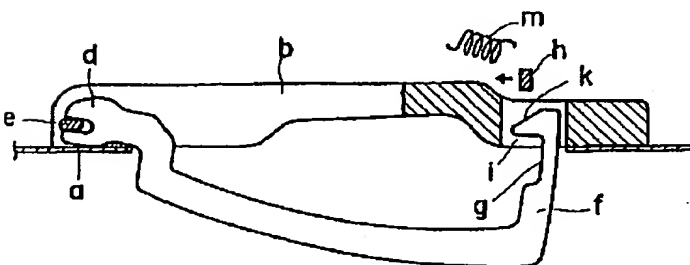
【図1】



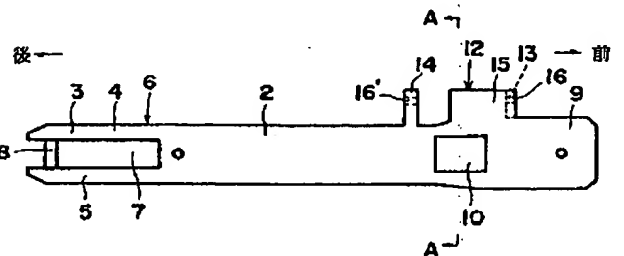
【図2】



【図3】

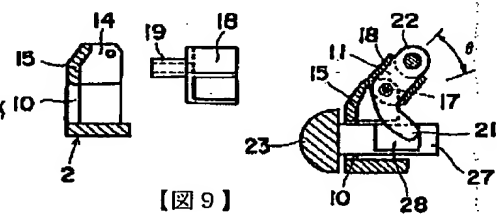


【図5】



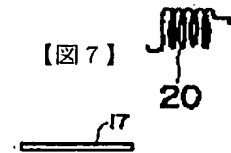
【図6】 【図8】

【図11】

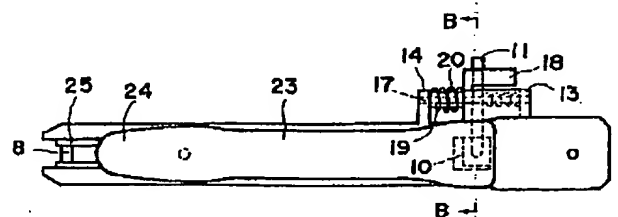


【図9】

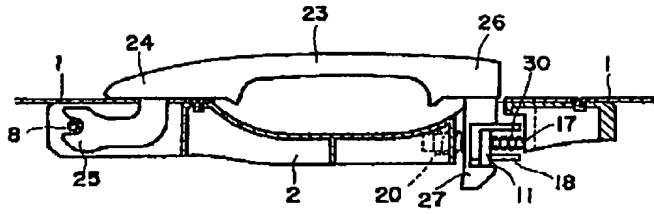
【図7】



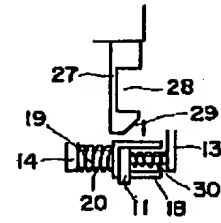
【図10】



【図4】



【図12】



【図13】

